

認知症啓発イベント 「南阿蘇村オレンジフェスタ」を開催しました



誰もがなりうる認知症について正しく理解し、村全体に支え合う輪を広げることを目的に、11月15日、役場にて「南阿蘇村オレンジフェスタ」を開催しました。

当日は、阿蘇立野病院と高森警察署の講話や、映画『父と僕の終わらない歌』の上映の他、各種体験・展示ブースが設置され、多くの皆さんにご参加いただき、会場は大いに賑わいました。

村では、今後も当事者や家族が安心して自分らしく暮らせる共生の村づくりを進めるとともに、地域のつながりや支え合いを大切にできる環境づくりに取り組んでいきます。



- ①映画と講話の会場となった大会議室
- ②「ウイズマフの会」作品展示
- ③「阿蘇立野病院」認知症予防チェック
- ④ロバ隊長づくりワークショップ
- ⑤「転ばぬ先の杖」作品展示と出張「オレンジカフェ」
- ⑥「阿蘇ファームランド」血管年齢・脳年齢チェック

韓国安城市と経済・食文化交流を行いました



11月21日から23日にかけて韓国安城市よりキム・ボラ市長や農家、企業の皆さんが来村され、交流を行いました。

22日は村生活研究グループの会員の皆さんが村の白菜と安城市のキムチの素を使って本場のキムチ作りを体験し、食文化の交流を行いました。

また22日と23日の2日間にわたり、道の駅あそ望の郷くぎのでは村と安城市の交流をテーマとした地域活性化イベント「韓国安城市K-FOODフェスティバル」を同時開催しました。安城市の特産を使った韓国グルメの紹介や実食販売の他、テコンドー協会の歓迎演武なども行われ、会場は賑わいをみせていました。



韓国の食文化は人気でした



役場に表敬訪問されました

キムチづくり体験

キム・ボラ市長のアドバイスをもとに、本格的なキムチを作りました。参加者は、市長に味が染み込むコツや部位ごとの美味しい食べ方などを聞きながら楽しい時間を過ごしていました。村生活研究グループ会長の山口育代さん（長野）は「国境を越えた料理の交流も初めてだった。言語の壁はあるが、キム・ボラ市長が一生懸命教えてくれたので、コミュニケーションを取りながら美味しいキムチができた。料理は世界共通だと思う」と語られました。



参加者と触れ合うキム・ボラ市長



皆さん大満足でした